

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑 桜ユニット		
所在地	熊本県荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年11月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体施設との医療の連携によって生活支援だけでなく健康面の支援も十分できている。また医療の提供にも本人の生活が重視され、そこに必要な医療やリハビリが個々に合わせて実施されているので安心して生活を長く継続することができる。認知症においてもその原因疾患はもとより、本人の人格や生活様式、その時の状況に合わせたケアができるように職員間での情報の共有と本人の反応を観察しながら検討し、適切なケアの提供に努めている。それに必要な職員の認知症理解も毎月の研修を重ね充実を図っている。入居者がより安心して、地域の中で暮らしていけるようなケアの実践に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

有明海を裏手にした“むつみ苑”は、開設時からのホーム行事は地域住民との接点としてのみならず、認知症ケア推進の一環として生かされていることが最近の住民からの相談事例の多さに表れている。運営推進会議と家族会の隔月開催の相乗効果及び入居者も発言できる体制はこのホームの特徴でもあり、認知症を知るきっかけ・啓発に入居者も担っている。経年による入居者の入れ替わりもあり、危険予知トレーニング(KYT)による予知能力の強化は外出傾向の把握等として、また、“一日一日を大切に！”をモットーに本人の持つ能力を生かした日常は(働くのを生きがいと料理への参加等)喜怒哀楽の意思の表出に繋げている。毎日ホームを訪れる家族等その関係が途切れないよう見極めながらの支援や、ホームで安心した生活の継続に母体である医療との緊密な連携、適切な医療を受けられる体制が築かれている。入居者と参加するいきいきサロンや小中学校、地区住民等への認知症ケア啓発にも取り組まれており、今後もホームの持つ人的・物的機能が地域に発揮されることであろうと大いに期待されるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月実施している研修の内容に「理念の理解」を取り入れ、理念を理解するとともに実践に向けた各自の考えをもとに討議を行い共通認識を図っている。	開設時の理念を今年度も継続し、掲示での意識向上や研修の中で想起しながら話し合いを行っている。入居者への対応や気になるとき等理念を原点として捉え、施設長は職員個々の目標達成に向け個別に指導し、目標に満足することなく、身近に目標とする人の影響も受けながら職員ともども成長したいと意欲的である。職員個々が入居者の困っていることや、出来なくなっている不安に寄り添うことが理念の実践として認識して、日々のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日ごろから地域の人との挨拶を大切にしながら、顔なじみの関係を築き、利用者と地域住民との交流や地域の事業所に対する理解を図れるように努めている。	地域の中での基盤は確立し、太鼓の演奏会等継続するホーム行事も住民も楽しみにされている。自治会に加入する入居者や、いきいきサロン参加等これまでと変わらずの生活の中での生活やホームも地域への貢献として地区への寄付、地域住民からの認知症状の相談に応じたり、小中学校に認知症サポーター養成に出向く等地域密着型事業所としての機能を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症に対する理解や支援の在り方についてサポーター養成講座や地域住民との交流での啓発活動や地域の方から寄せられる相談支援等を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の経緯や様々な場面での協力依頼、運営に関する諸々の反応に関して報告し、参加者の意見を各職員に伝え、ケアの向上に活かせるように話し合いの場を設けている。	定期的開催する運営推進会議は行事等の報告や意見交換をサービスに反映させている。地域の情報を得る機会や入居者も地域の一員として意見が言える会議として、地域の話で盛り上がる等雑談の中にも良い意見も見出している。家族への参加を便りにより呼びかけ、外部評価結果も報告している。	行政に対して子ども教育への意見等入居者の意見も挙がる等わきあいあいとした会議の様子である。入居者の生の声を記録として残したり、参加委員からの提案事項の進捗状況を説明すること等検討いただき、今後もサービスに生かされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や集団指導、各手続等で接する際には相互に情報の共有に努めている。	行政は入居者の生活ぶりを知りたいとホームを見学されたり、地域包括支援センターと協働による認知職サポータ養成講座への参画、認知症疾患医療センターでの事例検討等行政や地域包括との関係が築かれている。実地指導及び市開催の研修参加や介護保険認定更新に立会い情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で職員への周知を図り、様々な身体拘束を理解するとともに、される側の立場に立って考えられるように意識付けを図っている。	身体拘束及び虐待についての研修により意識強化を図っており、第三者が見て尊重していない対応とはどんなことか全職員が考える機会を作っている。センサーも使用せず、「仕事に行かなくては」等の言葉を帰宅願望と捉え一緒に外出する等個々の状況を把握している。また、その日の言動により察知する等職員の気づきや察知能力を生かし、いつもの違いをもとに次の行動に移すよう努め、時にはつかず離れず見守りながら外に出ることを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で高齢者虐待防止法について学び、本人や家族との信頼関係を築くことの重要性を理解できるように働きかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方には検討し、関係機関と協力し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一人ひとり十分な時間をとり、説明を行っている。また、疑問が生じた際にはその都度説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月で家族会を開催し、本人や家族の意見を聞き、運営に反映させている。	運営推進会議及び家族会を隔月に開催することで情報の共有及び家族会長により運営推進会議の内容も発信され、入居者及び家族の意見等を収集し、サービスに反映させている。また、訪問時に現状を報告し、意見や要望等の聞き取り、遠方の家族との定期的な電話での報告及び毎月ホーム便りとともに報告書での共有化としている。今年度初めの家族会の意見交換をしながら料金を改定している。	運営推進会議と家族会がホーム運営に反映されていることは聞き取りにより確認されたが、意見箱は設置されていない。家族の心情も察し、設置に向け検討いただきたい。今後も家族の忌憚りの無い意見を、サービス向上に反映されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、管理者と職員が意見交換できる機会を設けている。	法人全体の朝礼、毎月のミーティング、主任会議等職員の意見や提案を出す機会が多く、職員の意見をもとにした配置転換や各ユニットの改善点及び職員が働きやすい環境について意見を出し合う等合議による決定としている。職員のユニット間の異動を質の高へと繋げ、必要に応じ個人面談を行いながら意見等を収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に応じた就業環境を整えている。また、個々の状況に応じて対応できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修への参加の機会を作り、必要に応じて促している。資格取得に向けても様々なバックアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会や各研修への参加を促し、同業者との交流を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は環境に慣れていただけるように、まめな声掛けや関わりに努め、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気づくりに努め、面談や面会、電話等で話す機会を持ち、意見交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を聞き、本人の反応を見ながら職員間で話し合い、適切な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人とのコミュニケーションを密に行い、必要に応じて適切な支援の実施に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族会、行事等への参加を呼び掛け、交流を深め、連携しながら共に本人を支え合う関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日ごろから本人との会話を大切に、希望に応じて電話をかけたり外出や外泊ができるように支援している。	家族との関係性やその機能が途切れないよう、必要な支援を見極めている。家族の訪問時間を少しでも長くと居室でゆっくりとした時間を過ごしてもらい、入居者の楽しみや嬉しいと思える事例などを報告している。また、家族への思いを代弁し、訪問を依頼された事例もある。馴染みの美容院に家族と出かけた。盆・正月の帰省・墓参の他、専門医への受診等一緒に出かけられることで家族との関係性を保っている。働くことが生きがいと野菜や柿の皮むき等に取り組む入居者、四季折々の行事等も継続して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、お互いが支障なく関わりあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて相談等の支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを尊重し、できる限り本人の望む暮らしが実現できるようにケアに活かしている。	アセスメントで得た情報や高齢化・重度化傾向にある中、職員は一人ひとりに寄り添い、その時々状況や背景を探り、真意を見極めケアに反映させている。職員は日ごろから入居者に希望等を聞き取りしたり、意思疎通・発語困難な状況にうなずき・笑顔で判断することもあるが、笑顔であっても本人にとってはどうなのか、反応の違いを判断し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者との会話や職員間での情報の共有から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りノートを活用しながら、その時々本人の表情にも配慮し状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員間や関係者、家族との情報の共有に努め、本人の状態や状況に応じたケアができるように協議しプラン作りに反映させている。	本人・家族の意向をもとに、毎年コムチャートにより個々の状況を見極めている。各ユニットの介護計画担当者が作成したプランは主体的に過ごせるよう具体化し、ケアカンファレンスにより目標の達成状況や問題点の他、グランドアセスメントも見直し、継続可否を見極め新たに作成している。家族の要望にPT等専門職との連携もプラン化し、定期的なカンファレンスの他、心身の状態変化に話し合いを重ね新たなプランを作成する等、現状に即したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段との違和感を感じた際には職員間で情報交換を行い、必要に応じて管理者への報告・相談を行い、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態や状況に応じて通院やPTの訪問によってリハビリの実施や、デイサービス利用者との交流ができる機会を作る等の対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの状態を把握して安全面に配慮しながら、本人が地域で暮らすことを実感できるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を家族と協働しながら支援し、症状の変化があれば口頭や書面での情報の提供を行っている。	入居時にかかりつけ医について説明を行い、本人・家族の意向により母体医院へ移行する方も多いが、これまでの医療機関を引き続き受診する方へも同様に支援し入居者の決定を優先している。職員は日々の健康管理に気を配ると共に、その日の入居者の最終的な状態を施設長に毎夜報告し適切な指示を仰いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や状態の変化など気づいたことがあれば管理者(看護師)に報告・相談をし、指示や指導を仰ぐようにしている。必要に応じて受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入退院された時は医療関係者との情報の共有を図り、入院時も退院後も本人が支障なく安心して生活できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化した際には管理者(看護師)に小まめに状態を報告し観察のポイントや対応の指示を仰ぐようにしている。家族へも状態の報告をしている。ターミナルに向けたケアも含め、本人や家族の意向を確認しながらのケアに努めている。	契約時に『看取り指針』をもとにホームで対応出来る支援について家族へ説明し、日常的に医療行為が必要であれば医療機関への移行をとっている。その中でも24時間医療連携体制のもと隣接する母体医師や訪問看護の受け入れにより最良の支援に努めている。今までの流れの中で、普段の関わりができるようなケアの中に盛り込んだプランを立案し、緊急対応などの応援体制を話し合い出来る限りぎりぎりまで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて、勉強会に参加し救急対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練や緊急連絡の訓練を行っている。	法人全体で自衛消防隊を編成し、各部署ごとに担当者と役割を明確にしている。本年度は年3回の災害訓練を実施し、消防署や業者が参加する中、夜間想定火災訓練や連絡網を使った緊急伝達訓練などが行われている。『防災の手引書』は、新人職員へも手渡され、訓練後には人命救助について指導を受けるなど危機管理への認識を深めている。	台風などの自然災害時に、実際地域の方が母体医院へ避難された事もあり、今後も地域防災の要として貢献されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの性格を把握し、一人ひとりに適切な言葉かけに配慮し、誇りを傷つけないように対応している。	職員は接遇研修会で自分たちの言動自体が生活の環境の一つである事を学び、入居者が安心して発言できる雰囲気づくりに努め、よりよい関係性をもつよう努力している。施設長は職員が全てのユニットでより多くの入居者と関わり、力を発揮できるよう定期的に配置転換を実施しており、個人情報や守秘義務についても、横の連携を図り漏洩防止を優先させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの意思を尊重し、無理強いすることの無いように、その都度本人の希望を確認するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしいライフスタイルに沿うような支援に努めている。リハビリや散歩など本人の希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみは、本人ができることは本人にしてもらい、できないことは代わりに支援し、衣服の乱れや汚れが無いように、本人の尊厳が保たれるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニュー作りや食べやすいような盛り付け等工夫して提供している。準備や片付けを手伝ってもらっている。	専門店から届く材料(魚類)や菜園で採れた野菜を見ながら、各ユニットが独自で献立を決定し提供している。入居者が収穫した野菜の下ごしらえや後片付けなどできることで食に関わりをもち、職員も同じ食事を摂っている。また、行事食で出されるさしみや外食などは、入居者の楽しみであり、秋には地域に振舞う『団子汁会』が食を通じた交流の場となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニュー作りに努め、咀嚼や嚥下状態に合わせた食事の提供を行っている。食事量や水分量は記録し、把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりに合わせた支援を行い、習慣化を図っている。口腔内の状態の把握にも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めに声掛けや介助等必要な支援を行うことで、気持ちよく過ごせるように配慮している。	尿意のない方には誘導しているが、寛いでいる時より動かれている時に誘導する方が尊厳に繋がるのが指導されている。自立の方の継続に努め、多少失敗される方も、できることをやってもらい必要な部分を手助けしている。入居前はおむつ使用であっても、日中はトイレ誘導しており紙パンツ着用である。夜間帯で歩行が不安定な方にはポータブルトイレで支援しているが、家具調で安定感のあるものがホームで準備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニュー作りを行い、十分な水分量の摂取と体を動かされるような日課づくりに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせて入浴していただき、入浴中は一人ひとりとゆっくり会話をすることによってリラックスして入浴を楽しんでいただいている。	楽しく安全な入浴となるよう入る前に検温や血圧を測定し、広めの浴槽でゆっくりと1日置きに支援しているが、身体状況に合わせて週2回や希望に応じ4～5回の方もおられる。時間は午前・午後その日によって対応し、足浴の導入や汚染時のシャワー浴を随時行っている。寒くなると拒否の方も多くなるが、清拭や職員が連携しながら、間隔が空かないようにして清潔保持に努めている。	菖蒲や柚子湯支援を取り入れたり、会話によりリラックスした入浴支援に努めている。ユニットによっては支援に不要な品があり、今後は浴室内の環境を入居者目線で行うことで、更に寛げる入浴になっていくと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や散歩、リハビリ、入浴等、活動を日課に取り入れることで一日の生活にメリハリをつけ、安眠できるような生活を送っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合わせた服薬の支援を行っている。内服に間違いの無いように本人と一緒に確認している。内容に変更があれば状態を観察し、異変時には報告・相談を行い適切に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活を楽しんでいただけるような日課や環境づくりに配慮している。季節ごとの行事を計画し、参加して楽しんでいただけるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外への散歩や外出など家族と協働し、本人に楽しんでいただけるように支援している。	ユニットによって外出状況は異なるが、ホーム敷地内の散歩や桜の花見を行った際は、花見弁当や紅白の幕で楽しい雰囲気を演習している。また、菖蒲見学や、この秋はりんご刈りと温泉一泊旅行も実施し、車を使用する際は、車酔いされる方には十分配慮している。家族の協力により盆・正月の帰省、面会時の散歩、美容室支援や外食も行われている。	今後は車を使って法人が所有する畑での玉ねぎ収穫が検討されており、楽しみな外出が増えるであろうと期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望される方には家族と協議し、お金を持ち自由に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ユニット内に黒電話を設置し、自由に使ってもらっている。携帯電話も自由に使用していただき、必要に応じて本人の希望に沿った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの自然光を取り入れ、調度品や物品等の配色にも配慮し、落ち着いた空間づくりを行っている。季節の花を飾り季節が感じられるようにしている。	採光や窓からの眺めなどそれぞれ異なる3つのユニットでは、身体状況に応じた日々の支援が行われている。職員は特技を活かして季節の草花飾ったり、入居者の歌に合わせて手拍子や拍手などリビングホールで楽しい時間を過ごせるように努めている。また、段上がりの畳の間は入居者と一緒に洗濯物をたたんだり、踊りや楽器演奏など催し物でのステージとして頻繁に活用されている。	経年と共に物品も増えてくることから、定期的な見直しが必要と思われる。また、入居者が立ち上がりしやすいソファへの交換や壁紙の張替えを検討中であり、入居者にとって更に寛げる空間になっていくと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し入居者同士が談話できるようにし、本人が好きな場所に座れるように誘導の際に留意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に応じて家具等を配置し、本人に使い勝手がよい環境づくりに配慮している。	入居時には準備用品(寝具・衣類・他)と共に、テレビや家具・湯呑など馴染みの品の持ち込みを伝えている。家族の協力のもと衣替えもあるが、職員が1年を通し管理している。シルバーカーに櫛や化粧品など身だしなみ一式を準備している方、照明器を使いやすいように紐を下げている方など、安心や使い勝手良い居室への工夫が見られた。家族の面会時には食べ物の持ち込みを否定せず、食べられる方には持ってきてもらい、家族とゆっくり一緒に過ごしてもらいように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の様々な場所に手すりを設置し、本人の行きたい場所への移動ができるような環境づくりを行っている。トイレ等の誘導の目印を付け、わかりやすい環境づくりに配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑 桃ユニット		
所在地	熊本県荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症高齢者理解のため、法人内の勉強会で研鑽している。また、様々な研修に参加したり、資格取得に向けたバックアップもあり、新しい認知症介護の情報を得られ、ケアの実践にも活かされている。医療との連携も取れており、体調管理や機能訓練にも十分な体制が取られている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭におき、日々の生活を共に過ごしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例の年中行事の際には地域の方々を招いたり、ボランティアの演芸の訪問を受け入れ、地域とのふれあいや交流の機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方にも参加していたり、その中で伝えることもある。また、認知症介護の研修等で実習を受け入れており、地域においても貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に会議を開催し、運営状況の報告やその他の議題について話し合い、その中から課題を見出した折には検討してサービスの向上につながるよう努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただき、現状把握をしていただいている。その中で指導を仰いだり当方の要望を申し入れたりして連携をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を繰り返し実施することによって理解を深め、職員個々への意識付けを行っている。具体的行為を提示して常に念頭におくようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて常に学び自分たちの行うケアの一つひとつが広い意味で虐待にならないように留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて学んでおり、理解できている。個々の必要性があれば活用できる体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約開始時や法改正の際には面談を行い説明の上、納得していただいている。ユニット内でも入居の際には戸惑いや不安を解消すべく努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会に積極的に参加していただき、意見要望を言いやすい環境づくり心がけている。また、面会の折には職員から何か要望がないかを問いかけるように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月初めの主任会議において、職員からの意見があれば、施設長に届くシステムがあり、意見が反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や勤務態度等について、ユニット長から施設長等への報告相談を行い、職場環境の整備につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では研修班が種々の勉強会を開催しており、常に参加できる体制にある。積極的な参加を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習に来られた人との情報交換を行い、自分たちの介護を見直すことにより、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に可能な限り本人と家族から情報を収集して、本人の不安解消に努めている。笑顔でコミュニケーションを図り、信頼できる職員としていただけのように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまで在宅介護を頑張ってこられたことに敬意を表するとともに、自分たちがどのような思いで介護にあたっているかを説明して安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	戸惑いの中、入居される方と家族が多いため、これまでの経験に基づき、今何が必要かを検討し、関わりの中で適切なものを見極め支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、理念に掲げているように入居者を人生の先輩とし、これまで重ねてこられた経験から教えられることも多く、互いに尊重し合いながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、本人の状況やケアについて報告し、家族の反応や意見を聞き、それをもとにケアの方針を検討したり、今のケアが適切かどうかの判断を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が面会に来易い雰囲気づくりに努めている。また、本人の意向に沿って電話の支援を行ったり、家族に外出の同行を依頼している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で会話が楽しめるような支援を行ったり、他入居者の繕いものをしていただいたり、車イスを押していただくなど、支え合って暮らしていることを実感していただけるような支援に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族からの相談があれば、可能な限り支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から生活歴の聞き取りを十分に行い、趣向等を生活環境に取り入れるように努めている。常に本人の意向を確認しながらケアにあたっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の本人との会話からは勿論、入居の際や面会時にも家族の方や関係者と関わりをもつことで、情報を得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを欠かさず、家事の手伝いやレクリエーションの参加を促すことで、心身の状態の把握や有する能力の低下を防ぐように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人の状況や心身の状態の把握に努め、職員間や管理者との意見交換を行いながら、ケアのあり方を見極め、プラン作成に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に個別の記録をとることに加え、申し送りノートを活用し、個別の気づきや観察のポイントを職員間で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の把握に努め、他部署と連携しながら本人のニーズに沿ったサービスの提供に努めている。時には家族に代わって個々のニーズに対応することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の力が十分発揮できるように、地域資源に働きかけ協働していけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、以前からのかかりつけ医の受診を家族又は職員が同行し支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時の管理者(看護職)への報告を行い、適切な受診につなげている。また必要に応じて細やかな連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体施設との各専門職との連携を密に行い、通院時や訪問時に顔なじみの関係を築くことによって安心して入院や入居ができるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針の説明を行い、書面を渡している。また、状態の変化に応じて家族との情報の共有と意向の確認を行っている。その意向に沿ったケアの実施に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会で対応方法を学び、医師や看護師から職員それぞれが学ぶことができるように常々コミュニケーションを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練に併せて、災害時の避難経路や対応法を目に付く場所に提示し、職員一人ひとりが対応できるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の生活歴や生活様式の把握に努め、ケアを実施するうえで本人の人格を尊重した対応に考慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望をうまく表現できない方に対しても個々に適したコミュニケーション法によって、思いを引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やリハビリ、行事への参加など、その都度本人の意思を確認している。本人の希望に合わせて自室での昼寝など入居者個々のペースに合わせて過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性が表出できるように、一緒に衣類を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、入居者が力を発揮できるように下準備に参加していただく機会を作っている。できない方にもその場面を共有できるように配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	不足しがちな方については摂取量を記録に残し、看護師との情報の共有に努めている。生活歴や嗜好を把握し、十分な量摂取できるように個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自室での口腔ケアを促している。個別に適切な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきりの方以外はパンツで過ごせることを目標として、プライバシーに配慮した声掛けや対応に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れたり、水分や運動の重要性を意識できるような話題作りに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に考慮したうえで、本人の希望に沿った入浴ができるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	運動や家事活動等で生活のリズムを整え、体調や体力に応じて休息や睡眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病名や既往歴を踏まえたうえで、服薬している薬剤の情報の把握にも努めている。症状に異変があれば、速やかに報告・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた役割を作り達成感を味わっていただき、生活の張り合いとなるように支援している。苑の行事にも積極的に参加していただき、楽しみごとができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの花見や外食の機会を作り、外出の支援を実施している。本人の希望に沿って墓参りや外泊が家族とできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により嗜好品や消耗品の買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昔なじみの黒電話を各ユニットに設置し、自ら自由にかけることができるような環境づくりを行っている。また、本人の希望があれば手紙の投函や代筆の支援を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの調度品は馴染の深いものを配置し、落ち着いて過ごしていただけるような環境づくりをしている。節句の物や季節の花を飾り、季節感を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを広く設けているので、ソファアでの談話や窓辺での日光浴、手すりでの運動、車椅子での移動など、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族に使い慣れたものや馴染の深いものの持ち込みを依頼している。使い慣れたものに囲まれた生活の継続を支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内外に手すりを設置し、安全に移動できる環境づくりをしている。居室の入り口やトイレ等に目印をつけている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑 梅ユニット		
所在地	熊本県荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気が感じられるような環境づくりを心掛けている。畑の取れたての野菜を使い、季節感を味わっていただけるようなメニュー作りに努めている。母体施設が隣接していることにより、医療の専門職も日頃から連携が取れているので入居者の健康管理やリハビリ等でそれが十分に活かされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これまでの本人の生活歴を大切にしたケアの実践を基本理念に掲げられており、理念を理解したうえで入居者一人ひとりが安らげる雰囲気づくりと尊厳を大切にしたケアの実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集会に施設の一部を会場として提供したり、交流が図れる機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	太鼓の公演やロビーコンサート等の行事に地域の方に参加していただけるように、声掛けやビラを配布し案内している。参加されている方の中には毎年楽しみにされている方もいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や様々な議題を取り上げ話し合いの中で参加者からの様々な意見を取り入れ、職員間で話し合い、ケアや運営面に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加などで、運営状況やケアサービスの取り組み等を報告し、協力関係を築けるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等で身体拘束について学び、十分に認識し、実際のケアの場面でも職員間で検討し、共有化を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、虐待について学び職員それぞれが虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会の中で権利擁護についてテーマを取り上げ学ぶ機会を作り、職員間で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、面談を行い本人や家族の不安や疑問を聞き、説明を行っている。本人・家族の理解と納得の上契約を結ぶように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、面会や面談等家族が意見を言えるような機会と雰囲気づくり関係の構築に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月朝礼やミーティングで職員の意見を聞く機会を作り、主任会議等に提案し運営に反映されるシステムを作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように勤務環境や条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修会や試験等を受けることができるような勤務体制や参加費用等の考慮があり、法人内でも定期的な勉強会が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事等に招いたり、研修会に参加することで交流を深められるように機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の場面で入居者と話す機会を作り、本人の思いを受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、面談や面会、家族会、電話等で話をする機会を作り、家族の様々な思いを受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人だけでなく家族にも必要に応じた支援を行い、本人と家族が安心して利用できるように適切な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の様々な場面で、入居者個々の能力が発揮できるように配慮し、いろいろなことを一緒に行うように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事等に参加していただきながら、入居者や職員、他家族との交流を深めていただいている。共に本人を支える関係づくりを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が安心して生活できるように、本人の状態に合わせて家族と協働しこれまでの関係が継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、食卓での席順や役割分担等に混乱せずに関われるように配慮し、入居者同士で支え合う関係づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要な支援を行い、行事への参加や相談支援等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、本人の望む暮らしが継続できるように常に本人の意向を確認しながら本人の生活やケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、利用していた事業所等の情報や面談、面会、本人との会話等で一人ひとりの生活歴等を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが日々の状態把握に努め、常に情報を共有できるように職員間のコミュニケーションを密にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の生活の反応と家族の意見もプランに反映されるように作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の言動や感情の変化等、介護記録に詳細に記録するように努めている。その情報をスタッフ全員で共有しながらケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者と家族の状況に合わせて、柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者本位の生活を第一に考え、ボランティアを受け入れ、より豊かな暮らしとなるように活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って、医療機関の受診や薬の受け取り、他の医療機関につなげる等の支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の医療機関との情報交換を密に行い、健康管理や訪問看護等での連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の医療機関との連携を図り、退院後も不安なく生活が送れるように医療専門職の支援を受け、医療面も充実した体制作りができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末におけるケアの方針について説明を行い、同意を得ている。本人の体調に変化があればその都度本人の状態と本人・家族の意向を確認し、共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、応急手当・処置を行えるように勉強会を開催し、母体医療機関とも速やかに連携をとれる体制を築いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難・連絡等の訓練を行い、分かりやすく書いた手順を常に目に付く場所に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で本人を尊重し、プライバシーが護られるような対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を汲み取れるように努め、日々の暮らしの中で本人の主体性を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりが状態に合わせて本人のペースで過ごしていただけるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容師の利用や馴染の美容院等、本人の希望に合わせて、家族と協力しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるように、メニューや盛り付け等を工夫している。調理の準備や片付けを一緒に行っている。食事の挨拶を取り入れ、皆で食卓を囲む雰囲気づくりに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー表に記録し、栄養バランスや水分量が把握できるようにしている。個人の摂取量も記録に残し過不足の把握に努めている。また、咀嚼や嚥下等口腔状態に合わせた食事の提供と介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせた声掛けや誘導、準備や介助等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のその時々状況に合わせて下着を使い分け、排泄パターンを把握し、一人ひとりに適切な支援を行っている。トイレもユニット内に6か所あり、目印もわかりやすいように工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニュー作りや小まめな水分補給を促すようにし、散歩や体操、リハビリ等の運動も日課に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの好みに合わせた入浴環境を整えている。また、状態に合わせて入浴を楽しめるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や睡眠状態等を把握し、日課を調整したり休息時間を増減するなど、生活リズムを整え安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりに適した服薬の支援を行っている。処方内容に変更があれば、状態把握に努め、変化があれば管理者への報告・相談を行い早期の対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活を楽しんでいただけるような環境づくりに配慮している。新聞や雑誌など思い思いに楽しめるようにリビングに配置している。行事も楽しんでいただけるように計画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩や外出など、本人の希望に応じられるように家族と協力しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望すればお金を持つことや買い物をする事ができるように、家族の理解を得ながら共に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者や家族が自由に使用できるようにリビングに電話を設置している。また、本人や家族の希望によって取次等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテーブル、いす等の調度品は家庭で使用されるようなものを配置し、家具等は和ダンスなど昔なじみの物を置くことで家庭らしい雰囲気づくりと懐かしさを感じられる環境づくりを行っている。また、手作りの人形や飾り、クッション等でくつろげるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの配置を工夫し、入居者が思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や道具を持ち込んでもらい、馴染のある部屋作りを行っている。また、本人や家族の写真を飾られるなど、自分好みの部屋で過ごしていただけるように家族と協力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は広めの間取りで要所に手すりを設置し、一人ひとりの身体能力が発揮できるような環境づくりがされている。床は緩衝材を使用し、安全面にも配慮されている。		